

熱中症と診断され救急搬送された胸鎖乳突筋炎、 急性腎障害を随伴した Lemierre 症候群の 1 例

なが み ほる ひこ 1) た ばら ひで き 1) せ しも たつ ゆき 1)
長 見 晴 彦 1) 田 原 英 樹 1) 瀬 下 達 之 1)
さ とう ひろし ひろ せ まさ ひろ 1) あら がき まさ とし 1)
佐 藤 博 1) 廣 瀬 昌 博 1) 新 垣 昌 利 1)
お ぐろ ひろ あき 2)
小 黒 浩 明 2)

キーワード：Lemierre 症候群，血栓性静脈炎，胸鎖乳突筋炎，高 CPK 血症

要 旨

症例は70歳，男性。高熱，意識障害を伴った熱中症の診断にて当院へ救急搬送された。精査の結果，高 CPK 血症を伴う左胸鎖乳突筋炎を併発した左内頸静脈化膿性血栓性静脈炎（Lemierre 症候群）と診断した。自験例は高度炎症反応，中等度肝機能障害，急性腎障害を認め血液培養にて *Fusobacterium necrophorum* (Fn) を確認した。また頸部 MRI にて左胸鎖乳突筋炎，左内頸静脈内血栓を認め，頸部超音波検査にて左内頸静脈内に血栓様のモヤモヤ像を認めた。

自験例は咽頭扁桃腺炎を認めなかったが初期治療としてアンピシリン（ABPC：4 g/日）を7日間投与後にメロペネム（MEPM）1.5g/日及びミノサイクリン（MINO）200mg/日を10日間投与した。またヘパリン，ワーファリンによる抗凝固療法後にエドキシバンシール30mg/日による抗血栓療法を行った。抗生物質投与により炎症反応は漸次軽快し，経過中に高 CPK 血症によるミオグロビン尿，急性腎障害を認めたが補液にて軽快した。

は じ め に

Lemierre 症候群は1936年 Lemierre¹⁾が咽頭痛後に嫌気性菌による菌血症を経て内頸静脈血栓症と他臓器の多発性膿瘍を伴った20症例を報告した

感染症である。Lemierre が報告した時代は抗菌薬の普及も不十分であり，治療は患側内頸静脈結紮・切除が主であり死亡率も極めて高かった²⁾。しかし1960年代以降，抗菌薬の積極的使用により罹患率・死亡率は減少した³⁾。

今回，我々は胸鎖乳突筋への炎症波及による高 CPK 血症から急性腎障害をきたした Lemierre 症候群の1例を経験した。解剖学的には内頸静脈血栓性静脈炎は内頸動脈への炎症波及が多いが，

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 出雲徳洲会病院総合診療科

2) 同 神経内科

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院 総合診療科